

会 議 結 果 （ 報 告 ）

件 名	令和7年度 第2回中野市子ども読書活動推進連絡会議
日 時	令和8年2月19日（木）午後3時30分から午後4時30分まで
場 所	中野市役所会議室52
出席者	<p>【委員】小島佐和子委員長、清水幸美委員長代理、西澤由里恵委員、萩原広美委員、岩本多津子委員、小林薫委員、関江里子委員（7名）</p> <p>【事務局】小林生涯学習課長兼図書館長、富田課長補佐兼生涯学習推進係長、千田副主幹</p>
欠席者	<p>【委員】戸島裕司委員、中村仁志委員、丸山萌葉委員、小林武志委員、涌田公義委員、町田義文委員、宇田ほづみ委員</p>
会議概要	<p>1 開会 生涯学習課長</p> <p>2 あいさつ 小島委員長</p> <p>3 会議事項</p> <p>(1) 令和7年度事業報告について 令和7年度中野市子ども読書活動推進事業について説明した。</p> <p>(2) 令和8年度事業計画（案）について 令和8年度事業計画（案）の説明を行った。説明後、委員へ諮り承認された。</p> <p>(3) 第4次中野市子ども読書活動推進計画について 第4次子ども読書活動推進計画基本方針(案)について説明した。</p> <p>【意見・質問】</p> <p>(1) 令和7年度事業報告について</p> <p>A 委員：いろいろな事をやっていて、この状況というか、こんなことをやったらこんな良い成果があったとか、こんな改善点を見つけたとかというのは、2月13日に発送したアンケートで分かるということですね。</p> <p>事務局：関係機関へアンケートをお願いしてまして、今年度の成果はどうでしたかとか来年度の目標はどうですかということを聞いています。</p> <p>A 委員：まとめについては、次の会議で発表されるということですか。</p> <p>事務局：冊子としてまとめさせていただいて、皆様方にお配りする予定です。</p> <p>清水委員長代理：おはなしマップに読み聞かせボランティアの情報が載っているんですが、これはどこから抽出しているのでしょうか。図書館でやっている方とか、学校へ行ってる方とかいろいろいらっしゃると思うんですが、そういうのは載らなくて、どういう人たちが載っているのかなと疑問に</p>

思いました。

事務局：主に図書館で活動しているボランティアさんを掲載させていただいているので、学校でボランティアをされている方までは把握はしていません。

小島委員長：図書館で活動をしているボランティアの情報ということでよいですか。

事務局：そのチラシを見て、名簿を見てここにお願いをしたいという方向けというか、学校の中のボランティアとなると、若干、お願いの仕方が変わってくる気がします。ただ、広く活用いただけるような内容であれば、チラシ、名簿等に載せることも十分可能だと思いますので、ご教示いただければ検討させていただければと思います。

小島委員長：学校のボランティアは学校の子もだけで、一般の人は参加できないということだからですね。学校で誰でもいいですよ、体育館でやりますよというのは、載せても大丈夫ですか。

事務局：主に学校でボランティアをやっている方ですけど、学校じゃなくてもやっていただけることがあれば、広く市民の皆様に周知していきたいと思います。

小島委員長：つまり、学校の中でやるのは載らないということですよ。

事務局：そうです。

小島委員長：例えば、学校でボランティアの読み聞かせをして、一般の人もいいですよということであれば載せてもらえるということですか。

事務局：そうです。

(2) 令和8年度事業計画(案)について

B 委員：ブックリストについてですが、小学校では新1年生と4年生に配布し、中学生はどのように配布しますか。

事務局：中学生は全学年データでの配信となります。昨年、お聞きしたら、年度が替わるとリセットされてしまうということで。

B 委員：1月にタブレットが新しくなってリセットされているのですが。

事務局：ブックリストが消えてしまっているということですか。

B 委員：そうです。

事務局：担当にその旨を伝え、至急対応します。ただ、これで3月が終わって、4月になるとまたリセットされてしまうので、4月になりましたら、また新たに入れ直すということになります。

B 委員：小学校の配布はどうなっているんですか。

事務局：小学校の方は紙ベースで配布しています。

小島委員長：低学年と高学年になっているので、新1年生と4年生だけに配って、あとの人はずっと使ってもらおうということです。

B 委員：三年間も使うということですか。

小島委員長：図書カードにくっ付いているので、なくなることはないし、各学校図書館の部屋には大きいのを見ることができますので。また、もし傷むのが多いとかということであれば、配ってもらえるのですか。

事務局：おっしゃっていただければ、お渡しすることもできます。また、内容の改訂等が必要となってきましたら、また、配布し直しということになります。

A 委員：子ども読書活動推進連絡会議の捉え方というのは、自分で思っていたのと根本的に違うのかなと思うんですけど、3のところに子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるためとあるんですね。これは、ここに出ている活動を見ると、親子で、家庭で読書をするということについての計画なんですか。学校図書館での読書活動というのは、ここでは考えないことなんですか。

事務局：計画を策定する時に、先ほどアンケートを各機関に配っているという話をしたと思うのですが、今後、計画を策定する時に、例えば小学校、中学校に対する各目標があったり、保育園・幼稚園での目標があったり、家庭での目標があったり、各々の分野の軸になる目標を決めながら計画を策定するので、ここだけにという風にピンポイントでは絞らないつもりではいます。

A 委員：なんかこれを見ると、あまり学校図書館で子どもたちが、読書に興味を持ったり、読書活動を活発にするための施策というか、そういうものがあまり載っていないのではないかと思います。先ほどお話がありましたが、学校図書館で読み聞かせのボランティアをしてくださっている方たちが大勢いらっちゃって、子どもたちはその時間をとっても楽しみにしているし、学校の授業の中にも読書の時間を位置付けたりして、工夫して、読書活動を高めようという活動があると思うんです。そこをなんかもっと盛り込んで、家庭では今、なかなか親子読書活動できないという状況がたくさんあると思いますが、学校でこんな風にした成果でそれが家庭読書に結びついたとか、そういうところが見えてくると盛り上がるのではないかと思います。もう1点ですが、ブックリストを配布することで、私のところにもお送りいただいて、なるほど良い本を選んでくださっているなど。こういうものがあつたらなかなか本を選べないお子さんもこれを頼りに本を選ぶきっかけになっているかと思ったんです。ですが、学校図書館にあるんですか、市立図書館にはどの程度あるんでしょうか。その辺をお聞きしたいと思います。

事務局：順番が前後しますが、ブックリストの関係ですが、基本的には市立図書館にある本です。

A 委員：それはどれくらいあるのですか。これ見たいと思って行ったけど、もう借りられていますとか。

小島委員長：学校図書館の実情からすると、なるべく買うようしているんですけども、予算があるので、全部は買えないけれども無い本は順番に揃えています。

A 委員：やっぱり学校の中って、年度初めになるべく本を買うと思います。そうするとブックリストで後々出てきた本を買うお金がないとか、そういう現状があると思います。

小島委員長：ブックリストを出したのが昨年度だったので、予算もないので、一度には買えないと思います。でも、今まである本で代用するとかそういうこともあると思います。

A 委員：代用できているんですか。

小島委員長：できているはずですが。本来であれば、この会で本を配りたい感じがす

るんですが、予算がある訳ではないので。学校では4月で全て図書費が終るわけではないので。なので、順々に買っているところとか、特に欲しいというものでしたら、市立図書館に団体貸出で借りに行くとか、そういうことをされている司書の方もいらっしゃると思います。全ては難しいかと。

A 委員: 折角、良い本をブックリストで紹介してくれていて、親も子どももそれを見て、これを今度、お家で読みたいねっていう盛り上がりになってきたけど、本がないっていうのはちょっと可哀そうかなと思います。

事務局: C委員、1冊はありますよね。

C 委員: あります。

小島委員長: あれは図書館にある本の中で選んだので、図書館には必ず一冊はあります。

事務局: だから貸出中になってしまうと、どうしても借りられない時もあると思います。そんな時は、是非、違う本を選んでいただいて。それからもう1点、最初の方のお話です。これから計画を作っていくんですが、現在は第3次読書活動推進計画に取り組んでいますが、この計画の中にはもちろん家庭や地域の取り組み、幼稚園、保育所、子ども園での取り組み、そして、小中学校での取り組み、図書館での取り組みといったいろんな所での取り組みの計画となっています。今回、報告させていただいている事業計画につきましては、事務局での活動部分を報告させていただいております。それ以外の保育所ですとか幼稚園ですとか小中学校などの取り組みにつきましては、それぞれ委員になっていただいている方で推進していただいているというのが実情です。ですから、ここに出てくるのは、どうしても学校、幼稚園、保育園等以外の部分というと、家庭とか地域という部分が多くなってしまおうと思うのですが、実際には、それぞれの委員さんたちも含めて推進していただいているという状況の中で、先ほども話がありましたが、それぞれが相互に連携してということも十分検討していかなければいけないなと思っております。

A 委員: 学校図書館の活動も含めて考えていいということですか。

事務局: もちろんです。そういう計画になっております。その内容については、次回以降、細かく報告できるかと思えます。

小島委員長: 事業計画は4月からとなっているんですが、4月1日から行動することができなくなってしまうので、今回、この事業計画についてお認めをいただきたいんですが、よろしいでしょうか。また、足りないところはこれから年間を通してやっていきたいと思っていますので、プラスしていけたらなと思っていますが、おはなしマップですとか、ブックリストもそうですけど、これも4月1日から始めるのではなくて、今から用意し4月から使えるようにということなので、皆さんにお諮りしたいと思います。事業計画に承認される方は拍手をお願いします。

(拍手)

ありがとうございます。この事業計画を実施していきたいと思えます。(案)を消してください。これからいろいろやっていくようになると思えますので、また、ご協力よろしく願いいたします。

(3) 第4次中野市子ども読書活動推進計画について

小島委員長：内容的には前回の資料と同じですね。計画の目標の中で、家庭・地域、幼稚園・保育所、学校、図書館とあるんですが、ここに認定こども園というのはどういう扱いになりますか。ここには入らないですか。

事務局：入れていただければと思います。

小島委員長：幼稚園、保育所、認定こども園 ということによろしいですか。

事務局：はい。

小島委員長：基本方針なので、これを基本としてやっていきますよということなので、いろいろ言っただけだと上手くいくかなと思います。なかなか難しい部分があるとは思いますが。

A 委員：計画の期間なんですが、令和9年度から8年間とありますが、このところをもう少し分かりやすく教えていただけますか。

事務局：この8年間なんですが、今までは10年間という形で、前回、策定した時は設定していました。しかしながら、10年だと時代も移り変わるので、長いのではないかという意見がありました。では、なぜ8年なのかと言いますと、中野市総合計画というのがありまして、その期間が8年間なんです。その期間に合わせて、子ども読書活動推進計画の期間も8年間と設定させていただきました。

A 委員：中野市の総合計画というのは、中野市全体のいろいろな行政の大きな柱ということなんですか。

事務局：はい。そのとおりです。中野市でいろんな部署があるんですけど、いろんな部署でいろんな計画を作っています。私もこちらの部署に来る前にも別の部署でも10年ぶりぐらいに改定する大きな計画を作ったんですけど、いろんな計画のピラミッドの頂点に立つのが、中野市の総合計画です。基本的には中野市の総合計画でいろんな部署のことが書いてあるんですけど、内容的には今、私共がやろうとしている内容がこの計画と骨太の部分で合致していなければいけないので、総合計画と向いている方向が違うというわけにはいかないんです。かつては総合計画も10年で、前期が6年、後期が4年という計画だったんですが、やはり、今、これだけ目まぐるしく世界情勢や社会情勢も変わっていますので、計画期間を8年にしております。

A 委員：わかりました。

小島委員長：これほどかで見られるんですか。

事務局：市の公式ホームページでも見れます。かつては、我々職員も冊子で配られてはいたんですが、如何せんこういう時代ですので、我々も印刷製本費も予算の段階で削られるような状況ですので、市のホームページから中野市総合計画という言葉で検索をかければすぐヒットしてきますので、またお時間ある時にご覧いただければと思います。

A 委員：わかりました。是非、見てみたいと思います。それにしても8年間というのは、生まれた子どもが小学校2年生になるくらい、結構長い期間であるので、情勢の変化により、変更が必要な場合もありますけども。ちょっとこれは変えた方が良くはないのかという場面に遭遇した時には、手を入れていけると使いやすいものになるし、有効な計画になる

のではないかと思います。

小島委員長：他の方、ご意見ご質問をお願いします。なかなかこういう計画を立てるのは大変な時代なんですけど、やっぱり、立てておくということは、必要なことかなと思いますので、是非、良いものを作りたいんですが、皆さんのご意見を頂戴したいと思います。いかがでしょうか。計画の目標の中に、子どもの成長に合わせた読書スペースや蔵書の整備、充実というのがあるんですけど、例えば、小中学校であれば、中野市立ということになりますので、中野市の方から子ども一人いくらかで図書費が配られているわけですけど、このところずっと減っているんですね。予算が。そういうものも蔵書の充実ということに当てはまっていかなないかなというのがあるんですが、その辺はどういった風に考えていったらよいですか。難しいところなんですけれど。

事務局：我々も予算査定、予算要求の段階ではもちろん要求はしています。実は昨日、図書館協議会がありました。そこで、やっぱり冊数のことについてある委員からご意見をいただきました。例年よりも減らさらないようにと。何とか予算の方は確保したいのですが。単価も上がってきていますので、単純に同じ予算を確保したとしても冊数でいけば、若干減ってきているのかなという状況ではあるんですが、極力、今後も予算確保には努めて参りたいという風に思っています。

小島委員長：計画の中にも充実という言葉が入ってくると思うのですが、その時にただ充実と言っても違うのではないかという感じがします。

B 委員：蔵書は、現実問題年々ずっと減らされている状況で、正直、うちの学校でも古い本が、新しい本が買えないので捨てられない状態であります。さらに子どもの読書を支える人たち、学校図書館の司書の先生って役割が大きくなって、司書の先生が話したり、紹介したりしてくれて、じゃあ読んでみようかなとなったり、司書の先生が紹介コーナーを作ってくれて、あっ、面白そうと言って借りていくこともあります。それが、来年度から中野小と南宮中以外は、司書の先生が毎日いない状態になるじゃないですか。毎日はいないという状態になっていっちゃうと、まさに目標の支える人たちの充実ってなんだろうと。折角、計画の目標のところに書かれている言葉が絵空事だねと。現実と随分乖離しているという形になっちゃうのがとても悲しいので、なんか掲げたからには、そこにいけるような、もうちょっと具体的にした方がよいのではと思います。

小島委員長：現実の話をしていただけますか。

事務局：現実問題、おっしゃるとおりなんですけど、先ほども総合計画というお話がありましたが、それぞれの課でそれぞれの計画を持っています。そこで間違いなく推進するという同じような言い方をしています。そんな中で予算の取り合いをしているような状況になりますので、正直、この計画があるから予算確保できますというお約束まではできないのが実情です。

	<p>4 その他 4月に第1回目の中野市子ども読書活動推進連絡会議と第1回中野市子ども読書活動推進計画策定委員会を予定している。改めて会議日程を通知する。</p> <p>5 閉会 生涯学習課長</p>
--	--

中野市子ども読書活動推進連絡会議委員名簿 委員名簿

(任期 令和7年5月1日から令和9年4月30日)

氏名	選出区分	所属団体等	備考
小島 佐和子	読書ボランティア	おはなし♡びっくりばこ	出席
清水 幸美	読書ボランティア	おはなし♡びっくりばこ	出席
戸島 裕司	教育関係者	教育委員会事務局学校教育課	欠席
西澤 由里恵	教育関係者	中野平中学校	出席
中村 仁志	教育関係者	平野小学校	欠席
丸山 萌葉	教育関係者	中野中央幼稚園	欠席
岩本 多津子	保育関係者	ひよこ保育園	出席
小林 武志	保育関係者	子ども部保育課	欠席
萩原 広美	保育関係者	子ども部保育課 (松川保育園)	出席
涌田 公義	子育て関係者	子ども部子育て課 (青少年未来係)	欠席
町田 義文	図書館関係者	中野市立図書館	欠席
小林 薫	図書館関係者	中野市立図書館	出席
関 江里子	公募に応じた市民		出席
宇田 ほづみ	公募に応じた市民		欠席